

Uターンライフを満喫

～こんな幸せであるかしら(宏子さん) 髪も増えました(健士さん)～



なかざとけんじ ひろこ
中里健士さん 宏子さん

山形県鶴岡市出身

2006年 神奈川県 鶴岡市へUターン

家庭菜園づくり、めだか飼育、各種地域活動への参加など、

定年退職後のUターンライフを最高に満喫中。

二人とも生まれも育ちも鶴岡市大山の幼なじみです。結婚して、同地に家を建てました。建築設計の仕事をしていた健士さんが、東京の友人から仕事を手伝ってくれないかと声をかけられ、横浜の会社に勤務し神奈川に住むことになったのは、健士さんが40才の頃です。子供達の学校があったため、宏子さんは5年後に神奈川に移住。地元には守るお墓があり、初めから夫婦で鶴岡に戻るつもりでした。不在時の自宅は、近所の方や親戚の方に時々見てもらうようお願いをしていきました。

健士さん64才の定年退職を機に、18年10月に鶴岡市にUターン。すぐに、自宅の裏で念願の家庭菜園を二人で始めました。近所の方が次々に教えに来てくれたり、お茶のみに来たりして、菜園の丸太棒に5、6人が座ってはおしゃべりで盛り上がることもしばしばです。健士さんが趣味でやっている自宅のリフォームにも、やはり近所の大工さんが様子を見に来て色々教えてくれます。

また、メダカ好きの宏子さんは、健士さんと一緒に、夕暮を持って、かんかん帽と長靴という姿で、近所にメダカ取りにも行きました。このメダカからは赤ちゃんが生まれました。毎日がとても楽しいと言う宏子さん、鶴岡に戻る時に涙ながらに別れてきた関東の方と電話で話したら、あまりに明るい声でびっくりされた、とのこと。

ベビーシッターやヘルパーの経験がある宏子さんは、鶴岡に戻ってから何かボランティアをしたいと思い、認知症の方の見守り支援や市内のNPO法人が運営する「皓鶴亭こうかくてい」の手伝いをしています。「皓鶴亭」は空家を改築した中短期滞在用の宿です。神奈川では会社人間だった健士さんも、その活動に誘

いました。メールを使っでの予約管理や滞在者への鍵の受け渡しのほか、掃除・庭の手入れも楽しみながら行っています。県外からの来訪者も多く、鶴岡や周辺市町のことを聞かれても答えられるよう、健士さんは各種観光パンフレットで勉強中です。

「都会ではデパートに行行ってつい物を買ってしまう、それが全然なくなった。大好きな山歩きも、すぐそこに里山があるからお金をかけずに行ける。でも、冬は何とかならないかしら」という宏子さんに、「四季があるからいいんだよ」と健士さん。

二人は、もともと居た場所に帰ってきたとしても、地域に溶け込もうとすることは大切、地域で何かあれば積極的に協力するようにしたいし、気遣いも忘れないようにしたいとおっしゃいます。

息子さんと娘さんは関東の方とご縁があって結婚、関東に在住しています。神奈川に住んでいた時は、決して広くはないアパートで息子・娘さん夫婦とお孫さん達との月1回の会食があり、とてもにぎやかに過ごしました。それがなくなったのがちょっと寂しい、とのこと。それでも、二人が安心して鶴岡で暮らせるよう、息子さん・娘さんご家族からはよく気遣いの言葉があるそうで、それがとても嬉しそうです。

鶴岡の自宅を高齢の方のお茶のみ場にしたいと考えていた宏子さんは、鶴岡に戻ってくる時に、お互い異性の友達を連れてきてもやきもちを妬かないようにしようねと、健士さんと約束をしてきました。

以前住んでいた地に、時を経て、中里夫妻は新しい交流の場を創造しているようです。